

野田市鳥居崎遺跡

— 清水上花輪線埋蔵文化財調査報告書 —

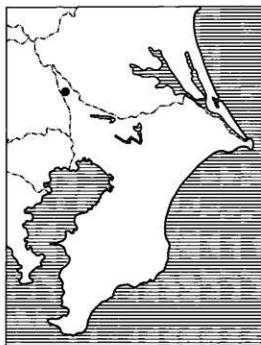
平成15年2月

千葉県都市部

財団法人 千葉県文化財センター

野^の田^だ市^と鳥^い居^ざ崎^き遺跡

— 清水^{しみず}上^{かみ}花^{はな}輪^{はな}線^{せん}埋^な藏^{ぞう}文化^{ぶん}財^{ざい}調^{てう}査^さ報^{ほう}告^こ書^{しょ} —



序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県文化財センター調査報告第446集として、千葉県都市部の清水上花輪線立体交差事業に伴って実施した野田市烏居崎遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、石刃という旧石器時代の石器や中世の渥美産の陶器などがみつき、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られています。この報告書が、学術資料として、また文化財の保護、普及の資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦勞をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成15年2月28日

財団法人千葉県文化財センター
理事長 清水新次

凡 例

- 1 本書は、千葉県都市部による清水上花輪線立体交差事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 本書に収録した遺跡は、千葉県野田市谷津字向238ほかに所在する鳥居崎遺跡（遺跡コード208-004）である。
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、千葉県の委託を受け、財団法人千葉県文化財センターが実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の担当者、実施期間は本文中に記載した。
- 5 本書の執筆は、副所長 川島利道が行った。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁生涯学習部文化財課、千葉県都市部東葛飾都市計画事務所、野田市教育委員会の御指導、御協力を得た。
- 7 本書で使用した地形図は下記のとおりである。
 - 第1図 参謀本部陸軍測量図 1/20,000地形図 野田町、粕壁驛
 - 第2図 国土地理院発行 1/25,000地形図 野田市（N1-54-25-1-3）
- 8 図版1に使用した周辺地形航空写真は、京葉測量株式会社による平成14年撮影のものを使用した。
- 9 本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。また、測量は日本測地系による。

本文目次

第1章	はじめに	1
第1節	調査の経緯と経過	1
第2節	遺跡の位置と環境	1
1	遺跡周辺の地理的環境	1
2	周辺遺跡	4
第2章	検出した遺構と遺物	5
第1節	調査の概要	5
1	調査の方法	5
2	層序	5
第2節	検出した遺物	9
第3章	まとめ	10
	報告書抄録	巻末

挿図目次

第1図	遺跡の位置	2	第5図	トレンチ・グリッド配置図	7
第2図	周辺の遺跡分布	3	第6図	遺跡土層図	7
第3図	発掘地点	6	第7図	遺物実測図	8
第4図	発掘調査区	7			

表目次

第1表	周辺遺跡一覧	4
-----	--------	---

図版目次

図版1	鳥居崎遺跡と周辺の地形	図版4	出土遺物(1)
図版2	調査前近景(北から) 調査前近景(南から) 調査状況	図版5	出土遺物(2)
図版3	北側調査区 遺物出土状況とセクション 遺物出土状況		

第1章 はじめに

第1節 調査の経緯と経過

野田市上花輪から関宿町を通して茨城県結城市に至る主要地方道清水上花輪線と船橋から大宮に至る東武野田線は、野田市清水公園付近の踏切で交差するが、千葉県はこの踏切の立体交差事業を計画した。この事業に当たって、千葉県都市部東葛飾都市計画事務所は、千葉県教育委員会に対し、事業予定地内の「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会を提出した。これに対して千葉県教育委員会から、事業地内に遺跡が所在する旨の回答が出された。その後、遺跡の取扱いについて、千葉県教育委員会と千葉県都市部との協議が重ねられ、その結果、発掘による記録保存の措置を講ずることで協議が整った。

発掘調査は財団法人千葉県文化財センターが実施することとなり、千葉県と委託契約を締結し、平成13年度に実施した。

整理作業は、発掘が終了した翌年の平成14年度に遺物の水洗・注記から原稿執筆までを実施して、報告書の印刷・刊行に至った。

なお、各年度の実施期間、担当者、作業内容は以下のとおりである。

平成13年度（発掘調査）

期 間 平成13年12月3日～12月27日

西部調査事務所長 田坂 浩

担 当 副所長 川島利道

作業内容 上層確認調査 46.8㎡/350㎡ 上層本調査 0㎡

下層確認調査 21.6㎡/350㎡ 下層本調査 0㎡

平成14年度（整理作業）

期 間 平成14年11月1日～11月29日

西部調査事務所長 田坂 浩

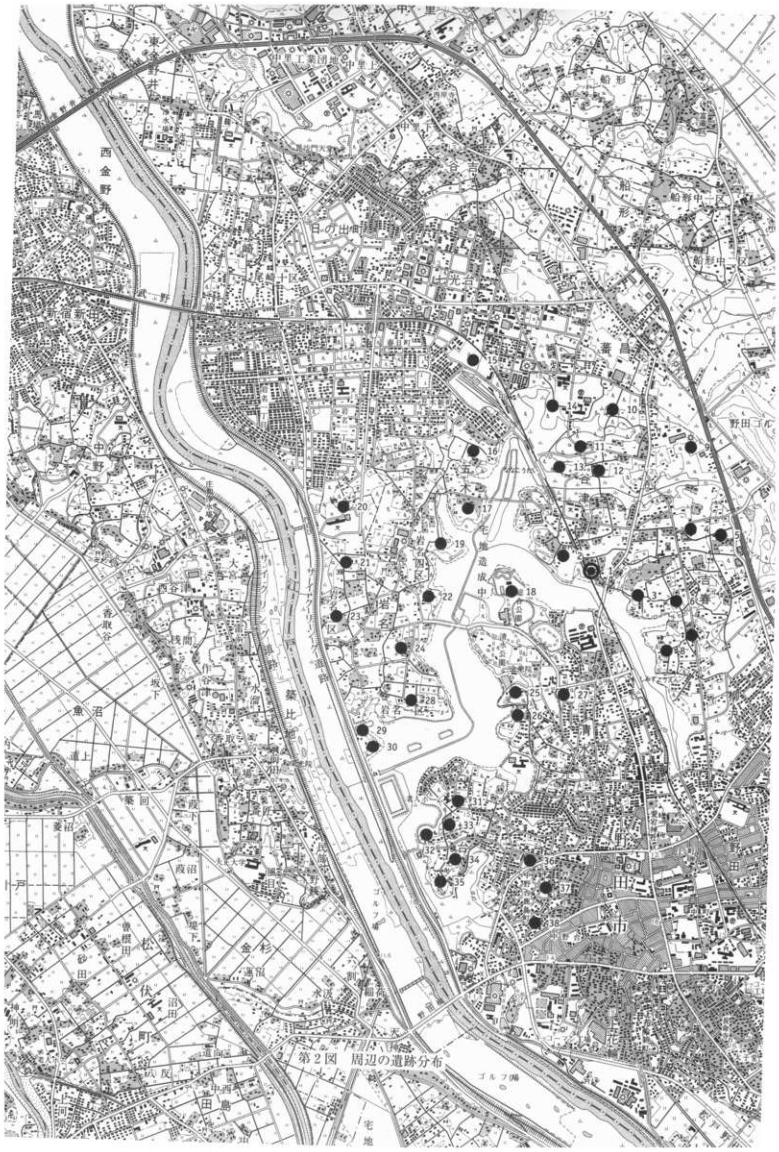
担 当 副所長 川島利道

作業内容 遺物の水洗・注記、図面・写真等記録類の整理、遺物の分類・選別、復元、実測、挿図・図面作成、原稿執筆

第2節 遺跡の位置と環境

1 遺跡周辺の地理的環境（第1図、図版1）

千葉県野田市付近は、埼玉県春日部市付近に沈降の中心がある関東造盆地運動¹⁾もあって、概して低平な地形である。北東側と南西側には利根川方面と江戸川方面からそれぞれ浅い谷が入り込んでいる。遺跡の南側にも江戸川に注ぐ座生川の支流が流れているが（第1図）、かつては座生沼という大きな沼が存在した（第2図）。そして、座生沼を介して西に広がる中川低地に繋がっていた。この座生沼は、印旛沼や



第2図 周辺の道路分布

ゴルフ場

手賀沼と同様、海が退いたときに陸地に取り残された海跡湖である。遺跡の標高は10~11mで、南面する谷との比高は5~6mを測る。

2 周辺遺跡 (第2図, 第1表)

かつての産生沼の周辺には多数の遺跡が存在する¹⁹⁾。時代順に概観すれば、まず、旧石器時代の遺跡は、岩名第14遺跡²⁰⁾から立川ローム層Ⅲ~Ⅳ層において5文化層、9ブロック、759点の石器群が出土しているほか、宝蓮坊遺跡でナイフ形石器、寺後遺跡ではナイフ形石器や尖頭器が出土している。次の縄文時代には、野田貝塚、中野台貝塚、岩名貝塚などの馬蹄形貝塚が出現し、大規模集落が形成される。さらに、弥生時代になると、宝蓮坊遺跡、寺後遺跡、一の坪遺跡などに集落が営まれ、古墳時代には、集落遺跡の他、南口遺跡(堤台遺跡)の方形周溝墓群や岩名古墳など明確な墓域がつくられる。そして、奈良・平安時代には、寺後遺跡、一の坪遺跡などに集落が存在し、中近世には、堤台城などの城跡や、元応三年(1321年)銘の板碑や常滑の蔵骨器を出土した吉春遺跡などの墓跡がある。

注1 アーバンクボタNo.18 1980〔特集=関東堆積盆地〕久保田鉄工株式会社

2 財団法人千葉県文化財センター 1997『千葉県埋蔵文化財分布地図(1)-東葛飾・印旛地区(改訂版)-』千葉県文化財センター調査報告第316集

3 落合章雄ほか 1994『野田市岩名第14遺跡』千葉県文化財センター調査報告第249集

第1表 周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	時代(時期)	遺構・遺物	備考
1	鳥居崎	旧石器・縄文・古墳・中近世	旧石器・縄文土器・土師器・滑美	本報告書
2	堂山貝塚	縄文(前~後)	縄文土器(前~後)	
3	栗向	縄文・古墳	縄文土器・土師器	
4	西宮野	縄文・古墳	縄文土器・土師器	
5	蒲井	縄文・古墳	縄文土器・土師器	
6	坂田	古墳	土師器	HS調査
7	向原第2	縄文・古墳	縄文土器・土師器	
8	向原第1	縄文・古墳	縄文土器・土師器	
9	吉春	中世	墓跡・板碑・竈戸・常滑	
10	谷津第1	縄文	縄文土器	
11	谷津第3	縄文・古墳	縄文土器・土師器	
12	谷津第5	縄文・古墳	縄文土器・土師器	
13	谷津第4	縄文・古墳	縄文土器・土師器・石器	
14	谷津第2	縄文・古墳	縄文土器・土師器・土製品	
15	西山	縄文(早・中)・弥生(後)	縄文土器・弥生土器	HS調査
16	光原敷	縄文・古墳	縄文土器・土師器	
17	南ノ前	縄文・古墳	縄文土器・土師器	
18	寺後	旧石器・縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世	住居跡・ナイフ形石器・尖頭器・縄文土器・弥生土器・土師器	SS4-55-59調査
19	宝蓮坊	旧石器・縄文(早・前)・弥生(後)・古墳	住居跡・中穴・ナイフ形石器・縄文土器(早・前)・弥生土器・土師器	SS48-H15-7-8調査
20	一の坪	縄文・弥生(後)・奈良・平安	住居跡・縄文土器・石器・弥生土器・土師器・鉄器	SS60-61調査
21	岩名新塚	縄文・古墳(後)	縄文土器・土師器・須恵器	
22	機現後	縄文・古墳	縄文土器・土師器	
23	梨ノ木	縄文(前)・古墳	住居跡・縄文土器(前)・貝刀・土師器	SS5調査
24	岩名貝塚	縄文(早・前~中~後)	馬蹄形貝塚・縄文土器(早~晩)	岩名第12遺跡と統合
25	清水	縄文(後)	縄文土器	
26	岩名作	縄文・古墳	縄文土器・土師器	
27	野田貝塚	縄文(前~中~後~晩)	馬蹄形貝塚・住居跡・縄文土器・土製耳飾・石斧・石鏃・石棒	県指定遺跡-SS7-58-59-63-H1-3-4-5調査
28	岩名立山	縄文・古墳	縄文土器・土師器	
29	岩名第14	旧石器・縄文(早・前)・古墳(後)	古墳周溝・ナイフ形石器・縄文土器・土師器・埴輪	H4調査
30	岩名古墳	古墳	埴輪・土師器・陶器	H4調査
31	堤台城	中近世	土師器	
32	北前	古墳		
33	北前貝塚	縄文(早・前)	住居跡・中穴・縄文土器(早)	S42調査
34	南口	縄文(後)・古墳(前)	住居跡・方形周溝墓・縄文土器	堤台遺跡と統合
35	堤台貝塚	縄文(中)	縄文土器(中)	
36	堤台	縄文・古墳	住居跡・縄文土器・土師器	H5-6調査
37	西前貝塚	縄文	縄文土器	
38	中野台貝塚	縄文(中)	馬蹄形貝塚・縄文土器(中)	SS4-58調査

第2章 検出した遺構と遺物

第1節 調査の概要

1 調査の方法（第3～5図，図版2・3）

調査対象地は、東武野田線の線路敷で、東側は既に鉄道敷設時に削平されていたため、調査はこの線路と西側の橋との間の狭小な部分について実施した。なお、中央部付近に踏切があり、調査区は大きく2つに分かれる（第4図）。

また、調査区全体に公共座標に基づき20mメッシュを組み、西からA・B・C…、北から1・2・3…と記号を付し、それを組み合わせた20m×20mを大グリッドとして、1A、2B、3C…とした（第5図）。そして、この大グリッドをさらに2m×2mの100個に分割し、西から00・01…09、北から00・10…90と記号を付し、これを小グリッドとし、大グリッドと組み合わせて1A-00、2B-01、3C-99等々とした。

上層調査は、1.5m×6mのトレンチを5本設定して遺構・遺物の分布状況を確認したが、若干の遺物を検出したのみで遺構の検出がないため、確認調査で終了した。

下層調査は、上層のトレンチの中に1.5m×2mのグリッドを設定して遺物の出土状況を確認したが、最北端のグリッドから石刃を1点検出したため、周囲を若干拡張して調査したところ、他に遺物の検出がないため、上層と同様確認調査で終了した。

2 層序（第6図，図版3）

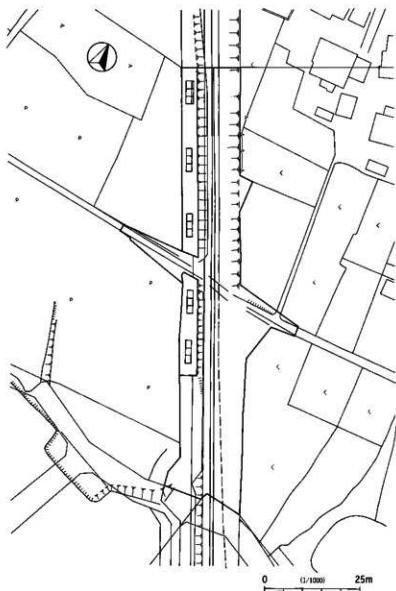
遺跡の土層については、第7図に標準土層を示したが、その概要を以下に説明する。

- ①層：黒褐色土層。表土腐食土層で木根や篠竹の根を多量に含む。部分的に線路の路盤掘削時の土が盛土として認められる。立川ローム層のⅠ層に相当。
- ②層：黄褐色土層。ソフトロームが主体であるが所々ハードロームが混じる。Ⅲ～Ⅵ層に相当。Ⅱ層は遺存していないため、Ⅰ層に取り込まれていると考えられる。A T層は単独では認識できなかった。
- ③層：暗黄褐色粘質土層。やや粘質な土層で赤色スコリアを少量含む。Ⅶ～Ⅸ層に相当。
- ④層：淡褐色粘土層。赤色や白色のスコリアを多く含む。ここから下の層は水による影響をかなり受けていたと考えられる土層で粘土質である。
- ⑤層：灰白色粘土層。赤色や黒色のスコリアを多く含む。
- ⑥層：黄白色粘土層。
- ⑦層：白色粘土層。

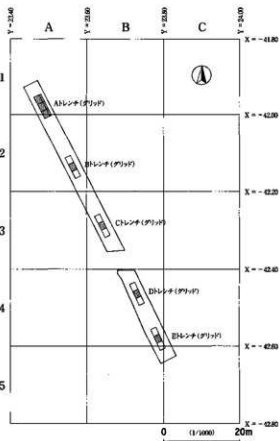
以上の土層堆積から、立川ローム層の大半は認められるが全体の層厚は薄く、また、長らく水の影響を受けやすい状況にあったことがわかり、南側の谷の形成が比較的新しいのではないかと推定される。



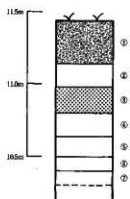
第3図 発掘地点



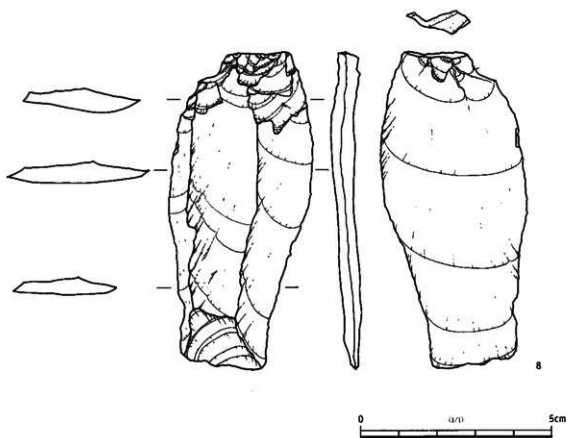
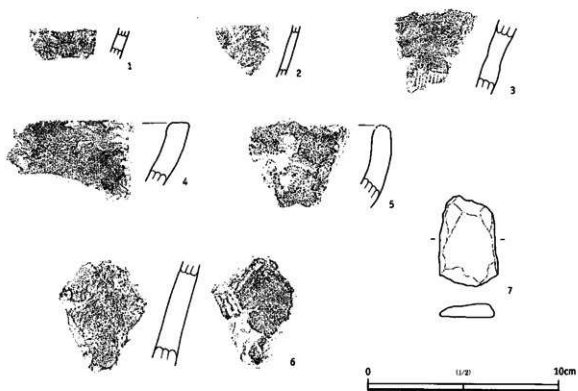
第4図 発掘調査区



第5図 トレンチ・グリッド配置図



第6図 遺跡土層図



第7图 遺物実測図

第2節 検出した遺物（第7図，図版4・5）

遺構の検出はなく，上層・下層とも若干の遺物を検出したのみである。

上層（①層）出土遺物

第7図1（図版4の2）は，早期の縄文土器の胴部片である。外面には若干の沈線がみられる。

第7図2（図版4の1）は，古墳時代前期の土師器甕の胴部片である。胎土には多量の砂粒を含む。

第7図3（図版4の5）は，内外面とも暗褐色の甕の胴部片で，硬く焼き締まっている。外面には叩き締めた押印がみられる。渥美産で12C頃のものと思われる。

第7図4・5（図版4の7・8）は，いずれも在地産の素焼きの焙烙の破片である。胎土に金雲母を含む。

第7図6（図版4の6）は，在地産の素焼きの播鉢の胴部片である。外面は荒れている。

第7図7（図版4の11）は，緑泥片岩製の板碑の細片である。

その他，図版4の3・10は縄文土器の細片であり，図版4の4は，陶器甕の胴部の細片で硬く焼き締まっている。外面は暗褐色を呈し，内面には灰白色の軸が掛けられている。また，図版4の9は，カワラケの細片であり，図版4の12・13は，石英製の火打石の細片である。

下層（③層）出土遺物

第7図8（図版5の1）は，安山岩の石刃で，細かい頭部調整と逆方向から石核調整を行った後，平坦打面から剥取している。背面には2本の稜が通り，同様の石刃を3枚剥取しているのがわかる。

第3章 まとめ

旧石器時代については、立川ローム層の第2暗色帯から石刃が1点出土した。出土層位が③層下部であり、立川ローム層のⅨ層からの出土といつてよいだろう。Ⅸ層出土の石器群としてまとまっているのは、近くでは、常磐道建設時に調査が行われた柏市の中山新田Ⅰ遺跡出土の石器群がある。9地点約27ブロックの石器群は、一部が環状ブロックを形成する。時間の制約から、報告書には詳細な資料の提示はないが、ナイフ形石器や局部磨製石斧を伴って多量の石刃が出土しており、石核に接合した石刃も相当量あるようである。石核の打面調整を行わないが、頭部調整は顕著で、打面の再生や打面転移を行うことも多いとされる。これらのことから、本遺跡出土の石刃も細かい頭部調整はあるが打面はフラットであり、中山新田Ⅰ遺跡で多量に検出された石核と同様の石核から剥取されたものと推定できる。

次に、中近世の渥美産の甕や在地産の播鉢などの存在であるが、近くには、元応三年(1321年)の銘を含む板碑7点の他、蔵骨器が出土した吉春遺跡がある。台地緩斜面の一部を台地整形区画したもので、中世の墓域であったと推定される。板碑は全て武蔵型で、紀年銘のわかるものが4点出土しており、のうち3点が「元応三年二月」と読め、しかも同一人の製作の可能性が指摘されている。蔵骨器の内訳は、古瀬戸灰釉瓶子1点、常滑小壺1点、常滑壺2点であるが、常滑片口鉢1点が蓋に使用されていたとのことである。吉春遺跡は規模が小さいようであるが、中近世の遺跡では、台地整形区画の外側にも遺構が存在することも多く、本遺跡も墓域の中心部ではなく、その外縁部に位置している可能性がある。

最後に、今回の調査区域は鉄道敷の橋の内側で、単線とはいえ電車が行き交うすぐ横での調査であった。なお、調査区が狭小であったため、排土場所や安全対策にはことのほか気を遣う状況であった。しかし、何とか無事に調査を終えることができたのは、全員の協力によるものであった。また、かつて、座生沼の周囲にはたくさんの人々のくらしが展開されていたと推定され、本遺跡もその中の小さな小さな1コマであったと考えられる。

注1 田村 隆ほか 1986「常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅳ－元割・聖人塚・中山新田Ⅰ－」財団法人千葉県文化財センター

2 浅野晴樹 1988「吉春遺跡」『東葛上代文化の研究』

写 真 图 版



鳥居崎遺跡と周辺の地形



調査前近景（北から）



調査前近景（南から）



調査状況



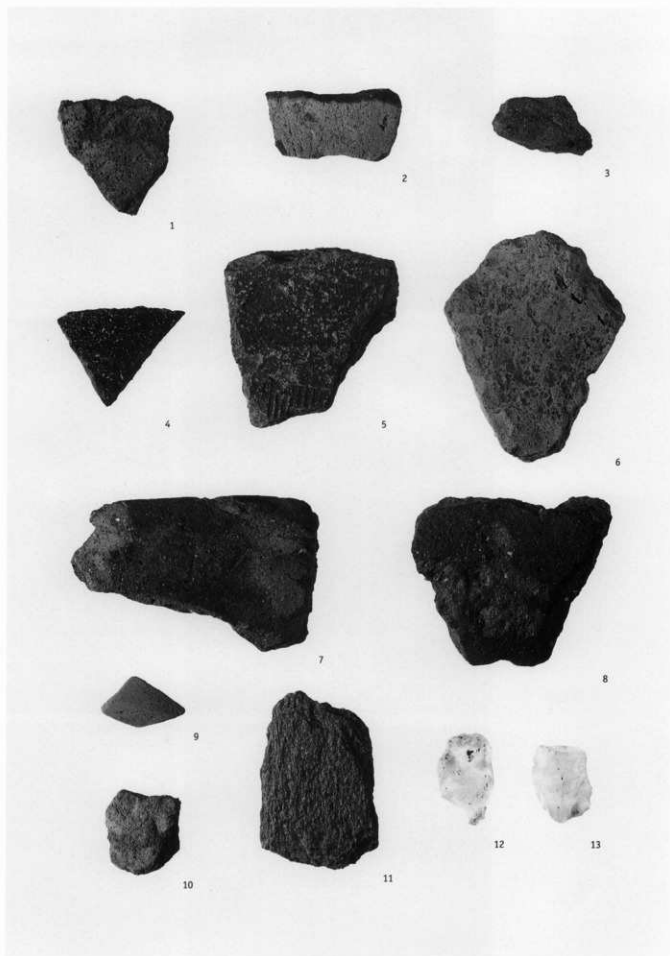
北側調査区



遺物出土状況と
セクション



遺物出土状況



出土遺物 (1)



出土遺物 (2)

報告書抄録

ふりがな	のだしとりいざきいせき							
書名	野田市鳥居崎遺跡							
副書名	清水上花輪線埋蔵文化財調査報告書							
巻次								
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告							
シリーズ番号	第446集							
編著者名	川島利道							
編集機関	財団法人 千葉県文化財センター							
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2 TEL 043-422-8811							
発行年月日	西暦2003年2月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
鳥居崎	千葉県 野田市谷津字向 238ほか	12208	004	35度 57分 40秒	139度 51分 35秒	20011203 ～ 20011227	68㎡	立体交差に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
鳥居崎		旧石器時代 縄文時代 古墳時代 中近世		石刃 縄文土器 土師器 甕、播鉢、焙烙、板碑、火打石				

千葉県文化財センター調査報告第446集

野田市鳥居崎遺跡

—清水上花輪竊埋藏文化財調査報告書—

平成15年2月28日発行

編 集 財団法人 千葉県文化財センター

発 行 千 葉 県 都 市 部
千葉県中央区市場町1-1

財団法人 千葉県文化財センター
四街道市鹿渡809-2

印 刷 株式会社 正文社
千葉県中央区都町1-10-6
